

## 第6学年 体育科学学習指導案

指導者 T①安部 謙吾  
T②坂元 ゆかり  
T③松木 邦紘

1 単元名 跳び箱運動 2クラス3T (3、4組)

2 運動の特性

一般的特性

跳び箱運動は、今できる跳び越し方でより大きく跳び越したり、少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦したりして楽しむ運動である。

～子どもから見た特性 省略～

3 視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点

視点1 子どもの実態を的確に把握し、運動の特性と指導内容を明確にしたうえで、子どもたちが学習意欲や目標をもって取り組めるよう道すじを工夫する。

〈手立て〉

〈道すじの工夫〉

子どもたちは「技が大きくきれいにきまると楽しい」「新しい技ができるようになりたい」と考えている。

○スパイラル型の道すじ

技能の習得状況には大きな個人差がある。そのような実態から、めあて①とめあて②の内容と楽しさを理解させた上でスパイラル型の学習に入っていきたい。1時間の中で2つの楽しさを味わうことが個人の欲求の差を埋め、学習意欲を高める上で大切だと考える。色々な楽しみ方を知り、自分なりの学習計画を立てる活動につなげたい。

○めあて①

「安定したフォームで跳ぶ」「今できる跳び越し方を大きくする」ということに意識を置かせて楽しめるようにする。踏み切り、着手、着地のポイントを意識させることで、安定したフォームで跳び越せるようにさせる。さらに、遠くから踏み切る、腰を上げるなどのポイントを意識させ空間や技を大きくさせて跳び越す楽しさを味わわせていきたい。

○めあて②

やさしい場や条件のもとで段階的に取り組めるようにすることで子どもたちの恐怖心を軽減し、積極的に取り組めるような場づくりを意識していく。また教師が子どもの課

題を的確に把握し個に応じた支援をすることで技ができることの喜びを感じさせたい。

○個人差を考慮し十分に学習を楽しむための工夫

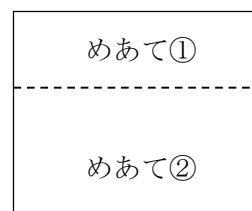
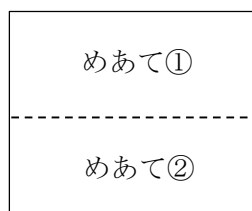
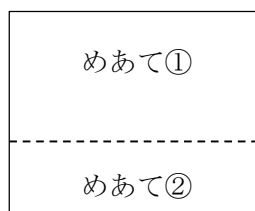
第2時、第3時はめあて①、めあて②を1時間ずつ行う。ここでめあての立て方、技のポイント、練習の場、学習の進め方などを共通理解する。そうすることで、学び方が身に付くだけでなく自分自身の課題に気付き、課題解決のための見通しがもてるようになると思う。

<自己の課題解決に適した学習計画を立てる>

5年生で跳び箱運動を行った時には、めあて①にもっと取り組みたい子や、めあて②に長く取り組みたいと言う子がいた。そのような様々な子どもの課題意識に柔軟に対応できるように毎時間の振り返りを活かして次時の学習計画を立て、活動を決定させる。子どもたちのもつ課題に対応できるように3種類の時間配分を提示し、めあて②に入る子は帽子を赤にさせる。主体的に課題に取り組める環境は子どもの意欲を高め、課題解決に対する意識も高められる。計画は子どもの技能の伸びに合わせて修正を加えていけるように柔軟性をもたせていく。自ら学習計画を立て「自分に合った、自分らしい学習」を進めていく姿を目指して取り組みたい。

また、自分で学習計画を立てることが困難な子どもがいた場合は、めあて①、②の時間配分やその子の力に合っためあての立て方の相談にのる。そうすることで全員が自分の力に合った学習計画を立てることができ、個々の活動がより生き生きする。そのような活動を繰り返すことで、思考面の成長や技能の向上が図れると考える。

A：めあて①に長く取り組む。 B：同じ位の時間配分。 C：めあて②に長く取り組む。



視点2 一人一人のよさを伸ばす学習を進めるための手立てを工夫する。

<手立て>

<2クラス3Tでの学習展開>

2クラス3Tの学習は、教師や子ども同士との関わり合いが豊かになるというよさがある。

○めあてや意欲、技能の違いに対応する

T・Tには技別、めあて別、場所別、支援を要する子への特別配置などの組み方があるが、本単元では、めあて①では場所別を基本としつつ、もち技が少ない子へ対応する教師を配置し個別に支援ができるようにする。めあて②では「練習の場」と「試しの場」という場所ごとに役割を分担する。練習の場で取り組んでいる子どもたちには、つまずきに合った

支援を一斉に行うことができ、試しの場にいる教師は、技ができたかどうかを直接判断してあげることで、子どもは自信をもってめあて①のもち技に取り入れることができる。さらに、3人の教師が指導にあたることで、1人の教師では対応できない豊かな関わりができ、指導効果を大幅に上げることが期待できる。子どもの急激な伸びによる練習の場の開設やめあての変更も想定しておくことで、子どもの課題解決への意欲にも応えることができる。

しかし、教師が別々の指導観、評価観をもってはT・Tの効果は期待できない。T・Tに対する以下の共通理解事項や身につけさせたい力の把握を徹底し、子どもの力を伸ばしていきたい。

[教師の共通理解事項]

- ・めあてのめあせ方 ・学習の進め方 ・場の工夫の仕方 ・役割分担
- ・技のポイント ・できばえの規準 ・準備や後片付けの分担 ・授業前後の打ち合わせ

【本単元で身につけさせたい力】

- 切り返し系の技（開脚跳び）
- ① 「助走からの両足踏み切り」
  - ② 「足を左右に開いての着手」
  - ③ 「ひざを柔らかくした着地」

- 切り返し系の技（かかえ込み跳び）
- ① 「助走から両足踏み切って着手」
  - ② 「足を抱え込んで跳び越す」
  - ③ 「ひざを柔らかくした着地」

- 回転系の技（台上前転、首はね・頭はね跳び）
- ① 「助走から両足踏み切り」
  - ② 「腰の位置を高く保っての着手」
  - ③ 「前方に回転しながら体を開いての着地」

引用文献  
「高学年体育の展開」  
根本 正雄 根津 盛吾

○単元を通して仲のよい子でペアを組む

学習の始めにペア同士でお互いのめあてを確認し合い、めあて②の活動ではペアで見合う時間をとる。学習の振り返りの場面では、今日のできばえや次時のめあてへの助言を行うようにする。仲のよい友達なので互いのめあてやもち技、特徴を把握し、気兼ねなく相手に合わせた助言や励ましができるであろう。成果や課題について話し合ったり、資料を基に練習方法や技のポイントを考えたりする活動を行うことで、コミュニケーション能力の向上が期待できる。

[ペアで確認する事柄]

- ・互いのめあて（どこに気を付けて、どんな場で練習するのかを伝える）（前半）
- ・よくなったところ、もっとこうの方がよいポイント（学習中）
- ・次時のめあてについてのアドバイス（後半）

視点3 一人一人の子どもが意欲的に学習に取り組む評価の工夫をする。

〈手立て〉

〈シンプルなできばえ基準の設定〉

子どもたちは技が決まったときに楽しさを感じている。めあて②の試しの場では、できばえ基準を着地に絞った。基準は下記の通りである。できたことをシンプルにすることで容易に評価がしやすくなり、技が決まった喜びに結びつくと考える。

学習が進むにつれ技のポイントをつかみ、着地が決まらなかった原因もアドバイスできるようになればよいと思っている。どの子にも「できた」ということが判断でき、子どもの意欲向上につながると考える。試しの場で3回できたらもち技として認めるようにする。

できばえの規準	A規準…2秒間その場で静止できる	} どの規準も「できた」と認める。
	B規準…着地後1歩のふらつき	
	C規準…着地後2歩のふらつき	

#### 4 学習のねらいと道すじ

##### (1) 学習のねらい

◎今できる跳び越し方をより大きくしたり、安定してできるようにして楽しんだり、少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦したりして楽しむ。

○友達のよいところを認め、励まし合いながら進んで跳び箱運動を楽しむことができる。

【関心・意欲・態度】

○自分の力に合っためあてをもち、学習カードや資料を参考に学習計画を立て、適切な練習の場や練習方法を選び活動することができる。【思考・判断】

○自分の力に合った高さや向きの跳び箱を安定して跳び越すことができる。【技能】

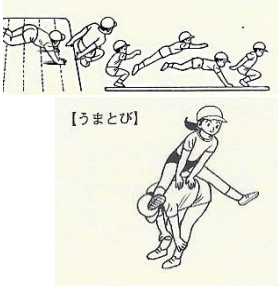
##### (2) 学習の道すじと評価

	1	2	3	4	5	6(本時)	7
0 ↓ 4 5	オリエンテーション	主運動につながる運動					
		めあて①	めあて②	めあて① 今できる跳び越し方をより安定させたり、大きくしたりして楽しむ。 めあて② 少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。			
関・意・態	○	○	○			○	
思・判			○	○		○	
技能		○			○		○

5 評価規準（おおむね満足できる状況）

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 跳び箱運動の楽しさを味わうために進んで運動に取り組もうとする。</li> <li>○ 友達のよいところを認め、励まし合いながら取り組もうとしている。</li> <li>○ 友達と協力して、器械・器具の準備や後片付けをしようとしている。</li> <li>○ 器械・器具の使い方の約束を守り、安全に気を配って取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の力に合っためあてをもち、学習の計画を立てて取り組んでいる。</li> <li>○ 課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技ができる。</li> </ul>

6 学習活動と支援（本時6 / 7）

はじめ	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のねらいと道すじを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</li> <li>○ 学習カードの使い方や資料の見方について理解する。</li> <li>○ 安全に学習するための約束や場づくりを理解する。</li> <li>○ 「もち技」とするためのできばえのポイントを知る。</li> <li>○ もち技調べを行い、自分のめあてを決める。</li> </ul>	
	学習活動と内容	教師の支援・評価（◇評価）
	<p>1 場づくりをする。</p> <p>2 準備運動、ストレッチやコーディネーション運動をする。</p> <p>3 主運動につながる運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アザラシ歩き</li> <li>・ くま歩き</li> <li>・ うさぎ跳び</li> <li>・ かえるの足うち</li> <li>・ 川跳び</li> <li>・ 馬跳び</li> <li>・ 跳び乗り・跳び下り</li> </ul>  <p>【うまとび】</p> <p>4 本時のめあてと学習活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習計画とめあて①、②の内容について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全に気を付け、協力して場づくりができるように助言する。</li> <li>◇ 友達と協力して、準備をしている。</li> <li style="text-align: right;"><b>【関心・意欲・態度】</b></li> <li>○ 伸ばしている部位を意識させたり、様々な動きをすることで運動能力を高めていく。</li> <li>○ 腕支持感覚、重心移動の感覚づくりの運動が正しく行えるように声をかけたり、師範を示したりする。</li> <li>○ 内容は、子どもたちの実態に応じて変化を加えるようにする。</li> <li>○ 腕で自分の体を支えるという感覚を大切にしよう助言する。馬跳びでは各自の能力に応じて変化をつけるように声をかける。</li> <li>○ 学習計画を確認し自分とペアのめあてを確認する。</li> <li>◇ 自分の力に合っためあてをもっている。</li> <li style="text-align: right;"><b>【思考・判断】</b></li> </ul>

めあて① 今できる跳び越し方をより安定させたり、大きくしたりして楽しむ。

5 めあて①を楽しむ活動。  
 ・自己の学習計画に沿って活動を始める。

【予想される活動とめあての例】

- 開脚跳び、かかえこみ跳び
- ・ふみきり調節板を3つ置いて、第1空間を大きくして跳び越そう。
- ・3本目のケンステップでの着地を目指して、第二空間を大きくしよう。



- 台上前転
- ・膝を伸ばして大きく回ろう。
- ・腰を高く上げ、大きく回れるようにしよう。
- 横跳び越し
- ・腰を高く上げて跳びこそう。
- ・着地の時にひねりを入れてみよう。

○それぞれの場を回り、子どもたちの活動を補助する。[T①場所別 T②場所別 T③個別]

- 腰の上がっている子、着手をそろえて切り返せている子を称賛していく。
- 大きく跳び越せている子どもを手本として見せ、イメージをつかめるようにする。
- 場ごとに見合っている子どもを称賛する。
- 強い踏み切り、上から着手、膝を使ってやわらかい着地ができている子を認める。

- 安定させたり、大きく跳び越すことを補助できるような用具を準備する。
- ・ふみきり調節板、ケンステップとマット
- ・ゴムを結んだポール など
- ◇自分の力に合った基本的な支持跳び越し技ができる。【技能】
- ◇友達を認め、励まし合いながら進んで跳び箱運動を楽しむことができる。
- 【関心・意欲・態度】

めあて② 少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦して楽しむ。

な  
か  
②

6 めあて②を楽しむ活動。  
 ・自己の学習計画に沿って活動を始める。

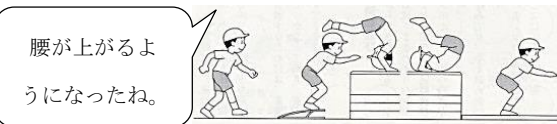
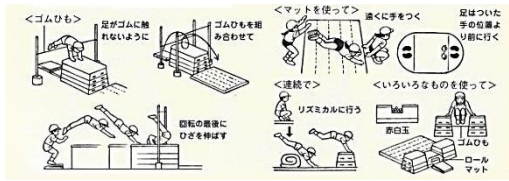
【予想される活動とめあての例】

- 台上前転
- ・腰を上げたいけれど、落ちるのがこわい。  
水深調節台の場で感覚をつかんでからマットで囲まれた場へ行って練習しよう。

○子どもの活動を支援する。  
 [T①場所別 T②場所別 T③場所別]

○友達のよいところを認めたり、助言ができたりするように声をかける。

- <台上前転>
- ・腰が高く上がっているかを見る。
  - ・つま先を見て、背中を丸め、顎を引くよう助言する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まっすぐ回れないから、まず低い跳び箱で回ってみよう。</li> <li>○かかえこみ跳び <ul style="list-style-type: none"> <li>・凹みのある場や階段になっている場で練習し、手のつき放しを意識しよう。</li> </ul> </li> <li>○頭はね跳び <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳ねるタイミングをつかむために、水深調節台の場を使って練習しよう。</li> <li>・マットを敷いた試しの場で挑戦しよう。</li> </ul> </li> </ul>	 <p>&lt;かかえこみ跳び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手をつき放そうとしているかを見る。</li> <li>・膝を胸に素早く引きつけているかを見る。</li> </ul> <p>&lt;頭はね跳び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体が丸まっていないかを確認する。</li> <li>・あふりが十分でない場合は補助をする。</li> </ul> <p>◇めあてを達成するために進んで活動している。 【関心・意欲・態度】</p>
	 <p>7 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に取り組んだ成果について振り返り、次時のめあてと学習内容を決める。</li> <li>・ペアで次時のめあての確認をしあう。</li> </ul> <p>「次は、かかえ込み跳びの第一空間を大きくしたいから、踏切の位置をさげよう。」</p> <p>8 後片付けをする。</p>	<p>◇自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアで集まり、アドバイスを伝え合いながら学習カードに記入させる。</li> <li>○もち技が増えた子を意図的に紹介、称賛し学習への意欲をもたせる。</li> </ul> <p>○協力して片付けるよう声をかける</p>
<p>まとめ</p>	<p>学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習計画通りに進め、学びを深めることができたか。また、計画を修正した場合、その計画は自分の力を伸ばす進め方になっていたか。</li> <li>○今できる跳び越し方を大きくしたり、少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦したりすることができたか。</li> <li>○友達と協力し、アドバイスし合いながら進んで跳び箱運動に取り組むことができたか。</li> <li>○自分のめあては達成できたか。</li> </ul>	